

青葉山・大年寺山などにかかわる空間情報づくり

(株)秋元技術コンサルタンツ 正会員 ○阿部 和正

東北工業大学 正会員 松山 正将・同 菊地 清文・同 佐伯 吉勝

1. はじめに

地球環境保全を視野に置いた地域づくりには、大きく二つの視点で取り組むことが必要とされている。一つは省資源・省エネルギー型の資源循環型都市地域への再編成と、いま一つは生物層豊かな環境共生型の生態都市地域づくりを目指すことである。著者らの研究背景には、後者の生態都市地域づくりへ有効な支援情報を提供するシステムを構築する取り組みがある。具体的には、地域づくり対象地域の实地調査の機会を最大限に活かして実地の地域情報資源を空間情報工学的（工学的・地理学的）に観測記録して、地理情報システム（GIS）を活用し収集した地域情報資源を効率よく発信するシステムの構築である。本報告もこのシステムの中核となる地域情報資源観測から、豊かな自然環境や歴史的環境の潜在的教育力の保全を意図し、特に地域づくりへの関心を掘り起こす動機づけの情報として、現況地形と歴史的構築物との関わりをGIS手法で空間情報化する試みについて述べるものである。



図－1 青葉山・大年寺位置図

2. 目的

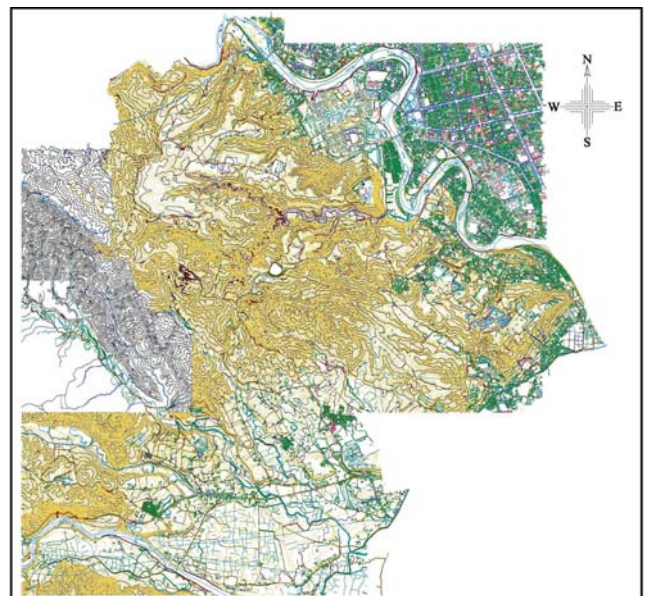
2007年5月30日に公布された「地理空間情報活用推進基本法」も具体的基本計画が閣議決定され徐々に定着し始めてきている。対象地域の空間情報化の基盤地図には1958（昭和33）年の仙台市都市図を数値情報地図として作成し、現在の航空写真オルソ画像と組み合わせ、青葉山・大年寺山周辺に関わる歴史的調査資料からGISで複合図を作ること、時系列的に開発経過に伴う自然環境等の変遷を把握するための情報づくりを目的としている。

3. 仙台市都市図の数値情報化

1958（昭和33）年に作成された仙台市都市図（1:3000）を国土交通省公共測量作業規定の準則に従い地図情報レベル2500で既成図数値化を行った。

今回数値情報化を行った対象地域は、仙台城跡を中心とする約2770ha（図－2）であり、仙台市都市図をイメージスキャナで取り込み、仙台都市図の四隅にある日本測地系座標と、旧三角点座標や寺院仏閣等の古い建物を既知点としてアフィン変換にて幾何補正を行い、TKY2JGD変換プログラムを使用し、世界測地系に変換をおこなったラスターデータを基にベクトルデータとして既成図数値化を行った。

ベクトル情報は、地形・地物ごとにレイヤ分けすることができ情報解析にも役立つものである。



図－2 数値情報化範囲図

4. 仙台北城跡

青葉山は仙台藩祖伊達政宗が仙台北城を築いた地であり、その周辺は緑豊かな自然環境に恵まれている。400年持ちこたえた仙台北城の石垣も、2004（平成16）年調査修復工事が終わり、さまざまな歴史的資料が発見された。写真－1は、昭和33年の地形図と現在の航空写真に青山公造制城郭木写之略図（推定1673～81年）に描かれている本丸建物を重ね合わせたものである。本丸書院の東側には懸造が建てられていたが、急崖部の雨水等による土砂崩落で後退が著しくその復元を難しくさせている。本丸跡の雨水排水計画と地形保全対策が急がれるところである。しかし、本丸西北部には東北大学植物園（国の天然記念物：青葉山）として保護管理されている空間と隣接していることから、これら城郭跡と自然環境が一体的に体感できる空間としてより価値を高めていくことが望ましいと判断している。



写真－1 仙台北城本丸

5. 大年寺跡

大年寺山の呼称は、1697（元禄10）年仙台藩四代藩主伊達綱村がこの地に^{おうぼくしゅうりょうしゅうざん}黄檗宗 両足山 大年寺を開いたことに由来する。この地が歴史上に登場するのは吉野朝廷時代（1332年～1392年）で、北朝の栗野氏四代栗野重直は足利尊氏から1343（北朝庚永2）年名取郡に二千余貫文を給され、翌年茂ヶ崎城に居住したようである。その後、栗野忠重が北目城に移り住むまでの間約120年間栗野氏が居城していたと思われる。

大年寺は四代藩主綱村以降の伊達家霊廟を司っている。現在伊達家廟所は、仙台市が所有し伊達家無尽灯廟（写真－2）の周囲は、整理され現在公園となっている。大年寺複合図から寺の規模の大きさがうかがえる。経ヶ峯にある霊屋瑞鳳殿は、伊達家の霊廟として多くの人々に知られているが、この大年寺は、まだまだ認知度が薄いようであり、情報発信が急がれる空間でもある。



写真－2 大年寺配置図

6. おわりに

広瀬川右岸沿いの青葉山と大年寺山の間には、写真－3に示すように経ヶ峯と愛宕山も位置している。このように藩政時代とかわる歴史的地域が、貴重な緑地空間を併せ持ちながらもかろうじて繋がっている事を確認できることは、質の高い空間創りを支援する情報として必要不可欠であることを示唆している。今後は、広瀬川と名取川の流域資源調査資料も加味しながら情報の有効性を高めていきたい。



写真－3 青葉山・大年寺山植生状況

参考文献及び引用文献

- （1）阿部・松山・菊地・佐伯「国史跡仙台北城跡にかかわる空間情報づくり」、土木学会第63回年次学術講演会公演概要集Ⅳ－167、CD-ROM、2008年9月